

2つのコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決等を通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、想像力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワーク等を備えた人物の育成

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- ・多様な個人それぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方
- ・幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的要素と獲得的要素を調和的・一体的に育む
- ・日本発の調和と協調(Balance and Harmony)に基づくウェルビーイングを発信

【特別活動の特質】

「集団活動」「実践的な活動」

【特別活動の目標】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

令和6年度 小・中学校GIGAスクール教科等研究集会

小学校 特別活動

徳島県教育委員会

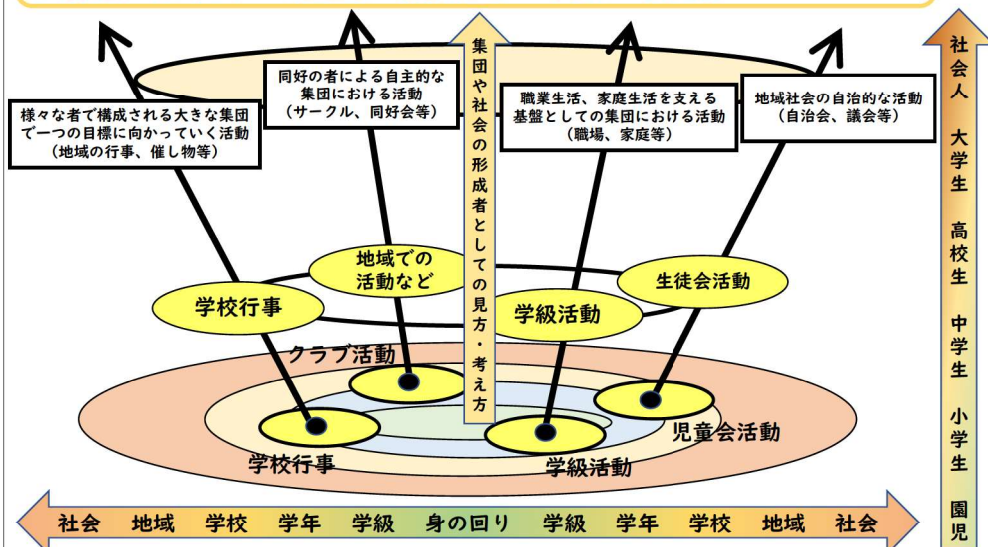
学習指導要領 前文

（前略）これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。
（後略）

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」（イメージ）

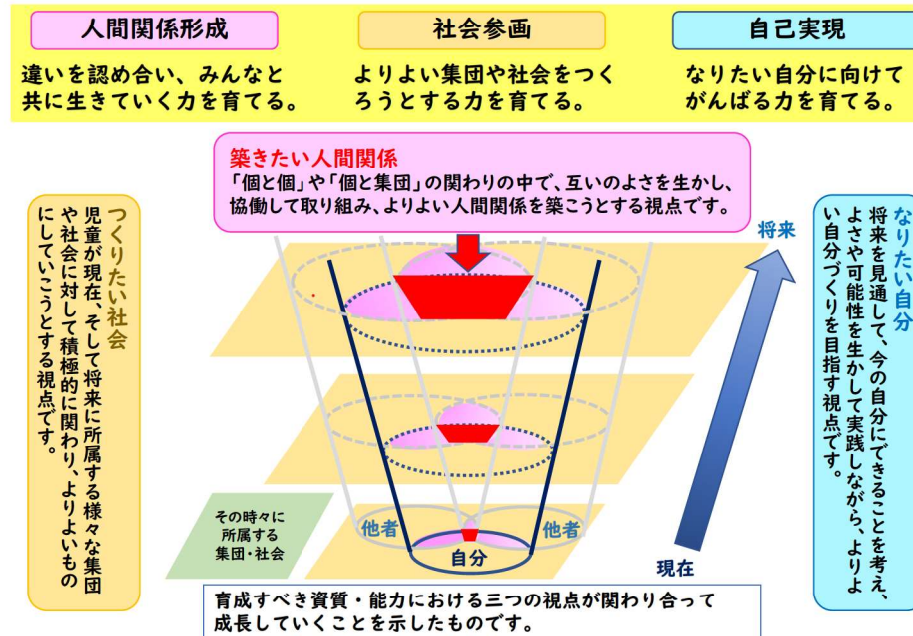
《集団や社会の形成者としての「見方・考え方」》

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、**よりよい人間関係の形成**、**よりよい集団生活の構築**や**社会への参画**及び**自己実現**に関連付けること



「特別活動で育成を目指す資質・能力」と「社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力」の関連イメージ 中教審答申資料より

特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点



「特別活動指導資料『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』 国立教育政策研究所発行より

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
【知識及び技能】

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の（人間としての）生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。

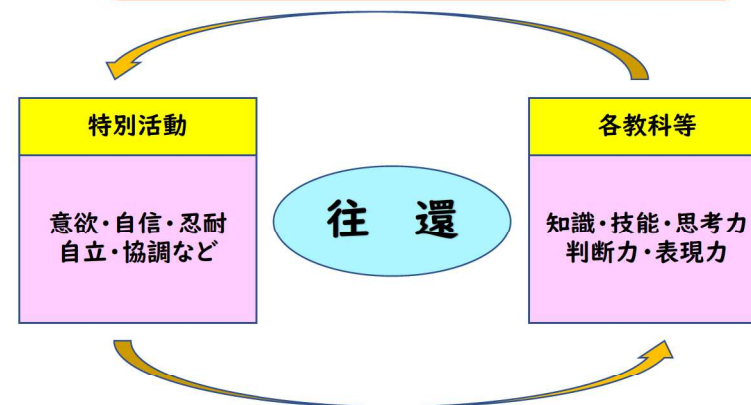
(※ () は中学校) 【学びに向かう力、人間性等】

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」より

特別活動において育成を目指す資質・能力

【特別活動を通じた学校生活全体の基盤づくり】

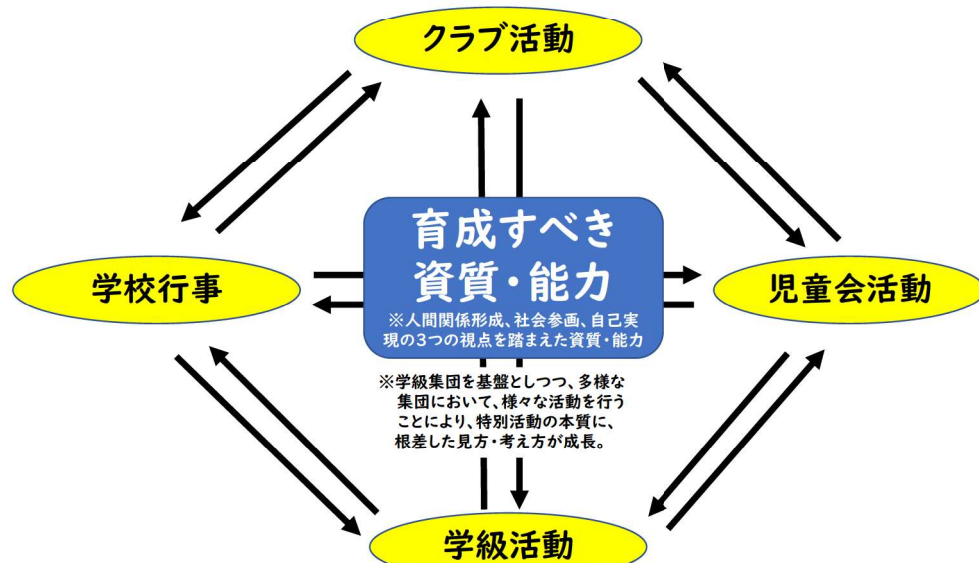
- ・学校、学級づくり(学校文化、学級文化の形成)
- ・人間関係形成能力の育成(コミュニケーションや合意形成など)
- ・社会参画や自己実現のために必要な力



【各教科等の学びを生かした特別活動の実践】

- ・各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動の各活動の中で生かす。
- ・自己の生活や進路、キャリアに学校での学びをどう生かすのかという振り返りを行う。

特別活動における各活動の整理



○学校生活において最も身近で基礎的な所属集団である学級を基盤とした活動。
○より豊かで規律ある生活を送るために、様々な課題の解決方法を話し合い、合意形成を学習する中で、基盤となる資質・能力を育成。

令和6年度小・中学校各教科等
教育課程研究協議会（特別活動）

『小学校学習指導要領』第1章 総則

第4 児童の発達の支援

1 児童の発達を支える指導の充実

- (1) 学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。
- (2) 児童が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、児童理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。

『小学校学習指導要領』第6章 特別活動

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童、児童相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。

【学級活動】

1 目標

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

各活動の特質の違いを踏まえた指導の充実

●学級活動 (1)

議題：児童生徒が問題を発見、「共同の問題」を選定。

解決方法等について話し合い、折り合いをつけて、集団として「合意形成」を図る。

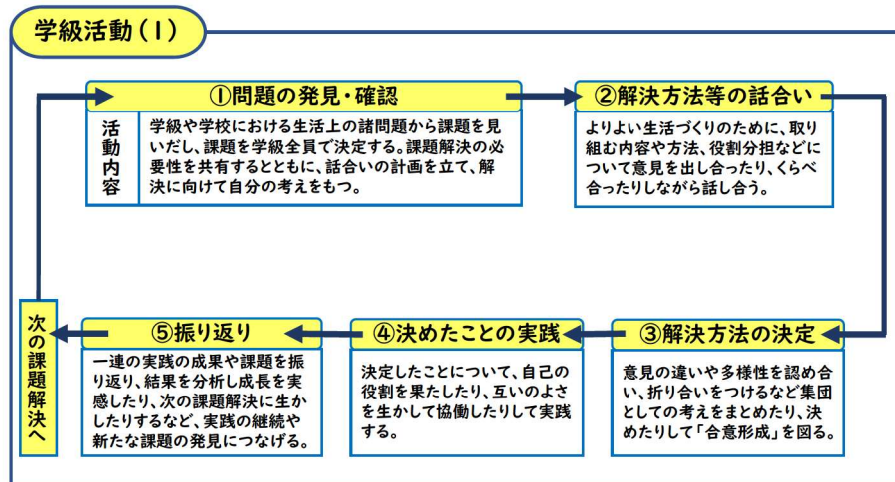
☆キーワード 『自分もよく、みんなもよい』
ことを決める。

●学級活動 (2) (3)

題材：教師が「共通の問題」として、題材を設定。

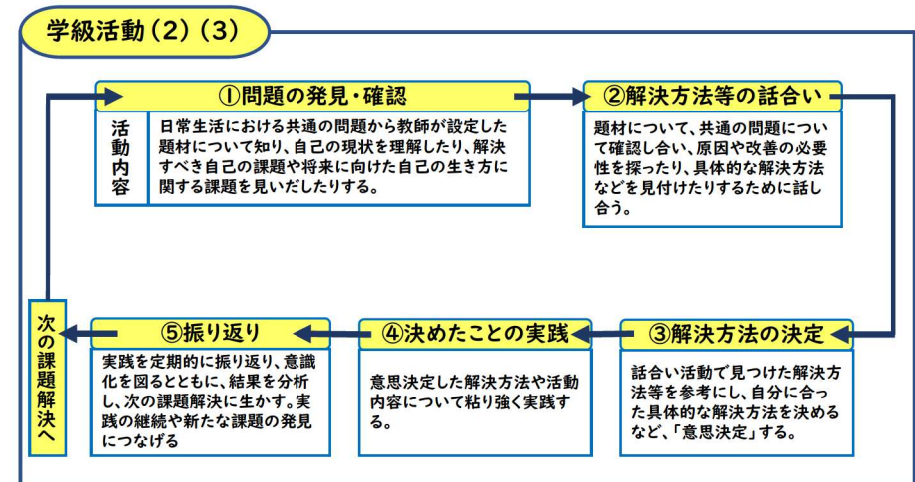
教師の指導に従って、解決方法について話し合いを通して考え、自己の課題に対する解決方法や努力目標を一人一人が「意思決定」する。

学級活動（１）「学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程（例）



「小学校学習指導要領解説 特別活動編」より

学級活動（２）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の学習過程（例）



「小学校学習指導要領解説 特別活動編」より

特別活動の指導においてＩＣＴを活用する際のポイント

【学習指導要領とＩＣＴ活用の関係】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- （１）多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- （２）集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- （３）自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。

特別活動の方法原理は「なすことによって学ぶ」であり、直接体験が基本であるが指導内容や活動場面に応じて、適切にコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用することによって、児童の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすることができる。特別活動の特質である「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてＩＣＴを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。

文部科学省「GIGAスクール構想のもとでの小学校特別活動の指導について」より

学級活動（１）で育てる力

児童生徒が自ら学級や学校における生活上の課題に気づき、解決するために話し合い、折り合いをつけて集団として合意形成し、協力して実践することを通して、自治的能力を育てる。

「自分もよく、みんなもよい」ことを決める

学級活動（1）

自発的、自治的な活動

教師の適切な指導の下

集団としてよりよく合意形成
を図って実践する

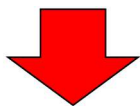
適切な議題選定・話し合うことの設定

令和6年度小・中学校各教科等教育課程研究協議会（特別活動）

話し合いの計画①(計画委員会)

- ・議題を選ぶ。(学級全体で共有)
- ・選ばなかった議題は提案者に説明する。
- ・学級会の司会・ノート記録・黒板記録などの役割を決める。
- ・話し合うことを決める。
- ・進行の上で気を付けることを考える。

話し合うことについて考えを書く
(全員)



計画委員会を開く(2回目)

・話し合いについての計画

「一つ決まったら・・・」

「話し合いが滞ったら・・・」

「〇〇と△△はまとめられる？」

「少数意見のものについてどうする？」

学級活動（2）や（3）で育てる力

児童生徒が自ら努力目標を意思決定し、
その実現に取り組めるよう生徒指導の機
能を生かす展開を工夫することを通して、
自己指導能力や自己実現につながる力を
育てる。

令和6年度小・中学校各教科等教育課程研究協議会（特別活動）

学級活動（２）（３）

年間指導計画に基づいて指導

話し合いを生かして

一人一人が意思決定して
実践する

適切な題材設定・めあての明確化

令和６年度小・中学校各教科等教育課程研究協議会（特別活動）

４つの段階を踏まえた展開例【学級活動（２）】

問題意識をもつ

- つかむ 自分の課題として受け止める
- さぐる 原因を追究し、解決への意識を高める
- 見付ける 解決方法について話し合いを通して考える
- 決める 自己の努力目標や実践方法を決める
【意思決定】

決めたことの実践

現在の自己の生活上の課題の解決

令和６年度小・中学校各教科等教育課程研究協議会（特別活動）

４つの段階を踏まえた展開例【学級活動（３）】

問題意識をもつ

- つかむ 題材を自分ごととして捉え、課題をつかむ
- さぐる これまでの自分を振り返り、自分のよさや可能性に気付く
- 見付ける なりたい自分に近づくための方策や解決方法について話し合いを通して考える
- 決める 自己の努力目標や実践方法を決める
【意思決定】

決めたことの実践

現在の自己の生活上の課題解決
および将来に向けた自己実現

令和６年度小・中学校各教科等教育課程研究協議会（特別活動）

学級活動の年間指導計画例（小学校）

月	(1) 学級や学校の生活づくり 今まで話し合われた課題や 予想される課題	時間 数	(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己表現		時間 数	日常指導等との関連 【児童会活動・学校行事等の 予定】
			題 材	指導のねらい		
4	・どうぞよろしくの会をしよう ・学級の係を決めよう ・学級の歌を作ろう ・学級会の名前を決めよう ・1年生を迎える会を楽しくしよう ・学級文庫を整理しよう	2	4年生になって (3) ア	4年生の自覚をもって、希望や抱負を出し合いながら、学級目標や個人のめあてをつくり、進んで学級を楽しくしようとする態度を育てる。	1	・あいさつと返事 【入学式】 ・楽しい給食 ・時間を守る 【遠足】 ・学習への心構え
5	・みんなで遊ぶ日を考えよう ・給食を配りにするか、セルフにするか話し合おう ・仲良し集会をしよう ・学級のスローガンを決めよう ・学級のシンボルマークを決めよう ・バス遠足を楽しくしよう ・係発表会をしよう	2	道路の歩き方・ 自転車の乗り方 (2) ウ	正しい交通規則を理解し、交通マナーを向上させ、安全に自転車に乗ることができるようにする。	1	・廊下の正しい通り方 【地域清掃】 ・集団下校訓練 （警報発令時を想定）
6	・雨の日を楽しくすごそう ・生き物を飼おう ・ゲーム大会をしよう ・一学期お楽しみ会をしよう	3	友達のよいところ (2) イ	互いのよさを認め合い、友達を大切にしようとする態度を養う。	1	・忘れ物をしない
7		2	楽しい夏休み (2) ア	これまでの経験から楽しく安全で充実した夏休みを過ごすための計画を立て、実践しようとする意欲を高める。	1	・夏の健康生活 【終業式】
9	・係活動を見直す ・運動会を盛り上げよう ・学級の応援旗を作ろう ・教室をきれいに飾ろう ・係活動フェスティバルをしよう	2	地震がおきた ときの避難 (2) ウ	地震が起こったときの避難の仕方を知り、安全な行動の仕方を理解させる。	1	・図書室の活用 ・災害時の避難訓練（地震） ・運動会の参加態度 【運動会】

令和６年度小・中学校各教科等教育課程研究協議会（特別活動）

話し合い活動の質を深める

○特別活動は、全ての活動の中心に話し合い活動をおいており、基盤となる活動は学級活動である。

⇒学級活動の特質の違いを踏まえて指導する。

◇学級活動(1)：自治的能力を育む。

◇学級活動(2)(3)：自己指導能力、自己実現につながる力を育む。

○単に「合意形成」を図ったり、「意思決定」したりするだけではなく、話し合い活動の質を深め、「よりよい合意形成」や「適切な意思決定」になるように、指導方法の工夫・改善を図る。

⇒(1)：提案理由をもとに、意見の違いを大切に、多様な意見のよさを生かして、学級としての考えをまとめたり決めたりする。

(2)(3)：「学級での話し合い」を生かして、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして自分に合った具体的な解決方法を意思決定し、ねばり強く努力することができるようにする。

令和6年度小・中学校各教科等教育課程研究協議会（特別活動）

特別活動における1人1台端末の活用

特別活動の指導に当たっては、その方法原理である「なすことによって学ぶ」直接体験が基本であるが、指導内容に応じて、適宜コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、児童生徒の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすることができると。

特別活動の特質「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要。

学級活動・ホームルーム活動における活用例

集団や自己の生活上の課題を解決するために学習者用端末を活用して

- 生活場面を撮影したり、サイトにアクセスしたりして、必要な情報を収集し、学校生活や社会の問題を見いだす。
- 個人の意見を表明し合うとともに意見を比べ合い整理する。
- 解決方法を集団として合意形成、個人として意思決定する。
- 実践を撮影及び編集し、他者と共有したり、互いの記録を統合して次の課題解決につなぐ。

全員の意見が（平等に）表明できてよかった。



文部科学省「特別活動の指導におけるICTの活用について」より

小学校特別活動映像資料



本パンフレットに掲載されている映像資料については、国立教育政策研究所のホームページから視聴できます。左記二次元コードもしくは、URL <https://www.nier.go.jp/> よりアクセスし、視聴してください。

令和4年3月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

小学校特別活動映像資料 パンフレット 目次

学級活動(1)	解説 学級活動(1)とは	4
低・中・高/児童・児童・教師	学級会をしよう(入門期の学級会)	5
低・中・高/児童・児童・教師	学級会を開こう	6
低・中・高/児童・児童・教師	計画委員会の進め方	7
低・中・高/児童・児童・教師	よりよい話し合いにするために	8
低・中・高/児童・児童・教師	係活動しよう	9
低・中・高/児童・児童・教師	学級会を開こう	10
低・中・高/児童・児童・教師	学級活動(1)の指導の工夫(学級会編)	11
低・中・高/児童・児童・教師	学級活動(1)の指導の工夫(係活動・学級会活動編)	12
学級活動(2)	解説 学級活動(2)とは	13
低・中・高/児童・児童・教師	みまわりのせいぜいといふ	14
低・中・高/児童・児童・教師	すきらいのない食べ方	15
低・中・高/児童・児童・教師	大切な友達	16
低・中・高/児童・児童・教師	感せんしょうからの身の守り方	17
低・中・高/児童・児童・教師	SNSと上手な付き合い方	18
低・中・高/児童・児童・教師	学級活動(2)の指導について	19
学級活動(3)	解説 学級活動(3)とは	20
低・中・高/児童・児童・教師	当番のこと	21
低・中・高/児童・児童・教師	学びのパワーアップ	22
低・中・高/児童・児童・教師	学級活動(3)の指導について	23

本映像資料 パンフレットの使い方



児童会活動、クラブ活動を充実することで、子供が育ちます！

- 学級や学年の異なる友達と協力して活動することで、協調性やリーダーシップ、フォローシップ、チームワークなどが向上します。
- 自分の興味・関心を追求したり、一人一人がよさを生かして活動したりすることで、個性の伸長や自己効力感、自己有用性の向上、自己実現が図られます。
- 多様な他者がいる学校の中で、みんなのことを考えて計画、運営、実践することで、他者意識や利他性などが向上します。
- 創意工夫して自ら学校生活を楽しく豊かにしようとする中で、創造性や自主的力が育まれます。

小学校特別活動映像資料

児童会活動・クラブ活動編の作成に関する協力者

(五十音順、敬称略)

- 石田 孝士 東京都世田谷区立西荻小学校校長
- 稲垣 光司 埼玉県浦和市立南小学校主幹教諭
- 河野 俊次 東京都江東区立東陽小学校主任教諭
- 五味 毅 横浜市立西町小学校主幹教諭
- 佐藤 亮治 東京都大田区立中沢小学校指導教諭
- 杉田 洋 国学院大学人間開発学部教授
- 長谷川純美 川崎市立立川小学校校長教諭
- 和久井伸彦 さいたま市立浦和大型小学校教諭

(○主筆)

国立教育政策研究所においては、次の者が本映像資料の作成・編集に当たった。

安部 恭子 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局 指導官/教育課程課 教科調査官

この他、編集・制作の全般にわたり国立教育政策研究所の次の者が担当した。

- 大倉 伸光 教育課程研究センター長
- 山田 嘉寿 教育課程研究センター研究開発部研究開発課長
- 尾本 聡 教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係長
- 川端 理気 教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係専門員
- 堀内 孝康 教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係教育課程特別調査員

イラスト協力 石原 美華

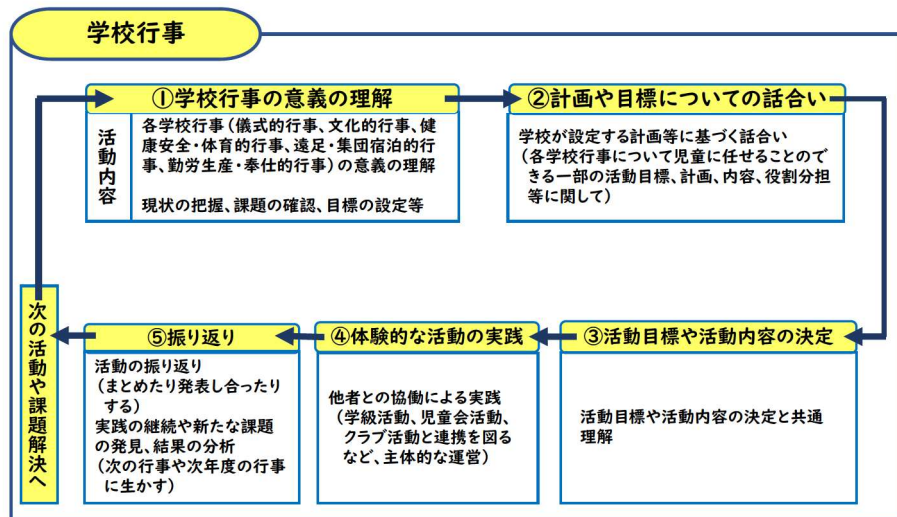
小学校特別活動映像資料



本パンフレットに掲載されている映像資料等については、国立教育政策研究所のホームページから視聴できます。左記二次元コードもしくは、URL <https://www.nier.go.jp/> よりアクセスし、視聴してください。

令和6年3月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

学校行事の学習過程（例）



「小学校学習指導要領解説 特別活動編」より

（１）儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。

（２）文化的行事

平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。

（３）健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。

（４）遠足・集団宿泊的行事

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

（５）勤労生産・奉仕的行事

勤労の貴さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」より

それぞれの学校で目指す児童生徒の姿を思い描き、研究を進める



「OUR 徳島特活小中連携いきいき事業」令和6年度の研究会の日程

研究指定校（穴吹小学校・穴吹中学校）

第1期研究会 令和6年 5月13日（月）
第2期研究会 令和6年10月 9日（水）
第3期研究会 令和7年 1月27日（月）

研究継続校（川内南小学校）

継続小学校研究会 令和6年11月 5日（火）

研究継続校（美馬中学校）

継続中学校研究会 令和6年12月 2日（月）